

# Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

## 目指すは世界に羽ばたく小児医療施設

⑩4 東京都立小児総合医療センター（東京都府中市）



カラフルで柔らかなデザインの外観

東京都立小児総合医療センターは37診療科をそろえ、561床と日本一の病床数を誇る小児医療施設だ。それぞれ歴史のある都立の清瀬小児病院、八王子小児病院、梅ヶ丘病院、府中病院小児科を統合、機能拡充して2010年に開院した。37科のうち、15科が新規の診療科だ。

府中病院が移転し、名称変更した都立多摩総合医療センターと同じ建物に設置され、敷地内には都立の神経病院、東京都がん検診センター、府中療育センターもあり、全体が「多摩メディカルキャンパス」と総称されている。本田雅敬院長は「これ

らの医療機関と連携しながら、受胎・出生から思春期・成人に至るまでの継続的な医療を提供している」と話す。

同センターは緑豊かな武蔵野の森をイメージし、「森のホスピタル」をコンセプトに院内に物語を展開している。入り口には、生命が宿る種をイメージしたドングリのオブジェが置かれている。院内に入ると、各受付カウンターの横に森の動物たちのリアルなオブジェが置かれ、子供たちを迎える。そして、奥の小児外来ホールには、大きく成長した木のオブジェが置かれ、子供たちの遊び場になっている。



子供たちの生命力をイメージしたドングリのオブジェ



森の動物たちのオブジェが置かれたカウンター



天井が高く開放感にあふれた医事課待合



5階に「丘の広場」を設け、6、7階の入院患者が低層階にいると感じるような工夫を施した



意表を突くような大きな木のオブジェが置かれた小児外来ホール



廊下などの壁には子供たちが楽しめる遊具が埋め込まれている

各病棟も「丘の○番地」「森の○番地」「空の○番地」と称している。

同センターは、五つの運営理念として①東京都における小児医療の拠点②こどもの成長とともに歩む医療③こども中心の医療④「こころ」と「からだ」の医療の統合⑤社会とともに創る医療——を掲げ、高度・専門医療、急性期医療を提供し、小児がん拠点病院としての医療を担っている。

具体的な特徴の一つが、小児の救命救急医療だ。小児の3次救急は都内に4カ所しかないが、多摩地区では同センターのみ。2012年度のER(救

急救命室)総受付患者数約3万7400人、ER受診後入院数約2800人、救急車受け入れ数約3260台はいずれも都内で一番多い。

発達障害や不登校、虐待などの患者が増える中、児童精神医療では日本で唯一の児童緊急受診入院システムを構築し、国内でも数少ない入院機能を備えた心の専門診療部門を持つ。

また、臨床研究支援センターも抱え、医師主導での研究が必要な臨床研究については、同センターからエビデンスを世界に発信する気構えで日々研究に取り組んでいる。